

2019年度立命館附属校 教師塾Ⅱ ～先輩教員から学ぶ 学級経営、生徒・保護者対応～

附属校教育研究・研修センター

5月7日(火)朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催「教師塾Ⅱ～学級経営、生徒・保護者対応～」を実施した。

今回は各附属校の先輩教員が講師となり、実践に基づいた学級経営、生徒・保護者対応のあり方、留意点についてお話しいただいた。

講師の先生方からは、短い持ち時間に関わらず、受講生の心に響くお話を頂いた。

参加者は、15人(立命館小学校2人、立命館中高2人、立命館宇治中高2人、立命館慶祥中高3人、立命館守山中高6人)であった。

立命館小学校 糸井 登先生 資料抜粋

《講義の概要》

まず、研修では講師の先生方から次の共通した内容をお伝えいただいた。

- ・学級経営においては、まずは児童・生徒との信頼関係を築くことが大切。
→「子どもと子ども」を繋ぐ。
- ・保護者対応は共感と信頼が必要。
→児童・生徒と日々真剣に関わっていないと得られないもの。
- ・鍵となるのは4月。
→はじめの1ヶ月でどこまで子どもたちと関係を築けるか、自分の思いを伝える。また保護者への情報共有できるかが大切。
→クラス懇親会や学級通信を活用する。
- ・1年後の成長を考える。
→4月の段階で、1年後、もしくは卒業までにどのような児童・生徒になってほしいか、を教員はもちろん生徒同士で考える。
→各行事に対して、「なぜ」するのか、例えば体育祭で「なぜ」勝ちたいかという理由を考えさせる。
- ・1人で抱え込まずチームとして働く。
→1人で抱えこまず、学年団など多くの先生と協力して課題に取り組む。

最後に、「これからの教育について」というお話がありました。授業や学級経営をするうえで、教師主語になるのではなく、児童・生徒が主役であり、一人一人の学びを考えていく必要がある。従来の授業の仕方や課題に疑問を持ち、本当にそれが必要なのか、子どもたちの学びに繋がるのかということ意識することが大切である。

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ

話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

山本 五十六

学級経営

児童対応

保護者対応

後手に回らない対策は必要です。
でも、事件は起こるもの。
事件がなければドラマは始まらない。
そんな余裕を持つことも大事。

立命館宇治中学校・高等学校
高野 阿草先生 資料抜粋

学級経営で大切にしていること

- 鍵は最初の1ヶ月
 - ・ 時を守り、場を清め、礼を正す
 - ・ 何のためにを常に問い続ける
 - ・ 1人ひとりの役割を意識する
- 日常を大切に
 - ・ 行事を活かしながらも、一番大切なのは日常
 - ・ 学級通信の活用
 - ・ 読書のススメ



日々変化する社会で教えることはAIでできるが、「子どもと子どもをつなぐこと」は教師にしかできない。

藤田浩之氏のお話(人生方程式)を紹介いただいた。グローバル社会において学校教育に求められることは成果を出せる子どもを育てることである。「成果=才能×努力×態度」である。才能と努力の振れ幅は0から100しかないが、態度は「-」もある。この態度を育てることはAIにはできない。学校教育に求めたい。

(記録 立命館宇治中高 神保 民香)

(編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄)

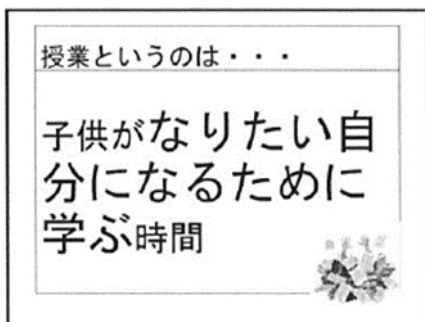
立命館中学校・高等学校

坊農 涼子先生資料抜粋

立命館慶祥中学校・高等学校

松尾 昭子先生資料抜粋

立命館守山中学校・高等学校 辻 大樹先生資料抜粋



まとめ

- 大切なのは「何のために」
- 教師の役割は「教える」ではなく「引き出す」こと
- 今日の前だけを見ず、先を見て指導する「大器を作るには急ぐべからずこと」
- 一人でやらない、チームを大切に。
- 教師が変われば生徒は変わる。
- 社会とつなぐ役割。

担任という長距離走 一回性の出会い

▶ 担任をしているときは、目の前の問題やしんどいことに目が行ってしまいますが、担任業務は3年を区切りにした長距離走です。どんなにうまくいかないことがあっても、卒業式の日に晴れやかな表情で旅立つ姿を見れば、すべて意味のあることだったと思えます。

▶ 子どもの成長は、ゆらいだり、こげたり、すねたり、立ち止まったり、休憩したり、本当にいろいろありますが、先生自身がいつも「ここにいれば大丈夫」という居場所を作ってあげることが大切です。体育祭のクラス行事等の最後には、賞をとってとれなくても、

「今日までの日々が、楽しかったなあ。このクラス最高や。先生は大好きや」と笑顔で伝えてください。誰かに愛されていたら、また誰かに愛を返せる生徒が育つと思っています。余裕を忘れず、頑張りすぎず、楽しみながら、頑張ってください。

まず初めに、私たちは「私学の教員」とあるということをご認識しなければならないと思います。

本日は、私がクラス経営をするにあたり、やってきたことや注意してきたことをみなさんに聞いていただけたいと思います。(主に中学での経験談となります)

担任時代の10年間は、日々思考錯誤しながら、子どもたちに助けられ、保護者の方々に助けられながらの担任生活でした。学級経営の中で、それが生徒対応・保護者対応と繋がっていました。

1. 学級経営

- 1) 学級経営するにあたり、保護者の理解と協力は不可欠です。保護者を教育のパートナーと考え、「ともに頑張りましょう」、「ともに○○○○」などといった感じで、一緒に子どもさんのためにやっていきたいと思います」という姿勢をかなり強く伝えてきました。
- 2) 保護者の方にはクラス方針を最初の懇談会で伝えますが、公やマナーのことに限らず必ずふれる方針を立ててきました。そして子どもたちにとってクラスは「学校での家族、担任は学校でのお父さん、お母さんである」ということを伝え、生徒や保護者の方に私たちは繋がっているということをしつこく伝えたいと思います。
- 3) 子どもたちには⇒「信頼」 保護者には⇒「共感と信頼」
誰でも初めにはあります。初めての担任、初めての学年団、初めての教師になる・・・
教員の一生懸命さを伝えることができれば、子や親に自分の考えや思いが伝わり、それが自身の学級経営に繋がっていくと私は今でも思っています。